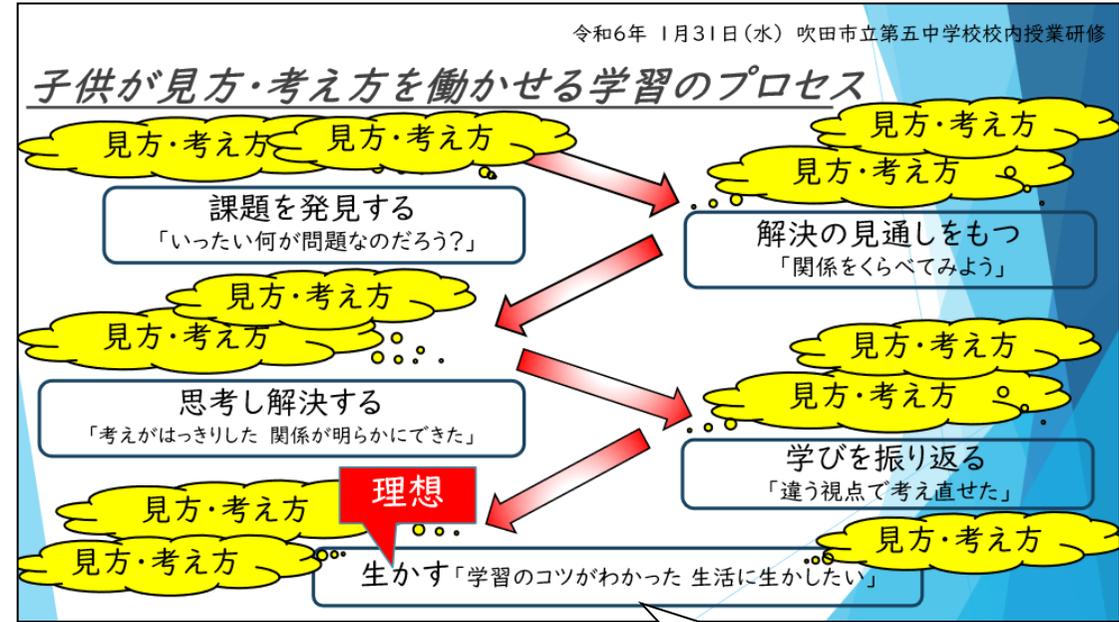


学びの広場

学力向上通信 職員室版
茅田 涼太郎
令和5年 2月28日
8号。研修の感想 まとめ

目の前の子どもを大切にする。

今年度は「学習指導要領に基づいた授業づくり」「能力ベースの授業づくり」を研究してきました。1月31日（水）の振り返り研修では藤原所長代理から指導助言を頂きました。私が心に残ったのは「目の前の子どもを大切にする」という言葉です。振り返ると「能力ベース」や「学習指導要領」と向き合い、読み解いて理解することに苦慮しながら試行錯誤した1年間でした。ですが、どんな授業でも取り組みでも「目の前の子ども」をないがしろにははいけません。「論語読みの論語知らず」という言葉があります。「本に書いてある理論・理屈を知っているだけで、実際の生活における行動が伴わない」ことを意味します。五中の子どもを大切にして、学習指導要領を道しるべとして、子どもたちの資質・能力を育成するような五中の授業づくりを行動に移していきたいですね。



令和6年 1月31日（水）吹田市立第五中学校校内授業研修

授業者が（意図的に）働きかける

①学習活動へと向かう原動力を生み出す

- ・疑問や多様な考え方を生み出す図や言葉、資料を提示したり、活動を設定したりする。
- ・やってみたい、できるようになりたいと思わせる質の高い対象との出会いを演出する。

令和6年 1月31日（水）吹田市立第五中学校校内授業研修

授業者が（意図的に）働きかける

②既存の知識や概念を呼び起こす

- ・生活経験や学習経験を思い返す資料を提示したり、表現を引き出す図や記号、言葉を提示したりする。
- ・根拠となる経験や情報（「なぜ」）や、妥当な解決方法（「どうする」）、予測できる結果（「どうなる」）を問う
- ・解決方法について妥当性を検討するための視点を示し、互いの考えを共有する場を設定する。

令和6年 1月31日（水）吹田市立第五中学校校内授業研修

授業者が（意図的に）働きかける

③言葉をつなぎ深い理解へと誘う

- ・共通点や相違点等の視点をもとに、考えを整理したり、様々な結果から何が言えるのかを問うたりする。
- ・もとの自分の考えや級友の考えと比較・関連付けできるように、板書の工夫や構造化をする。
- ・思考の抽象化（「つまり」）や具体化（「たとえば」）をうながす問い直しをする。

令和6年 1月31日（水）吹田市立第五中学校校内授業研修

授業者が（意図的に）働きかける

④学びを振り返って価値付けする

- ・自己の学びを振り返る場を設定し、新たに得た知識や技能を既に持っている知識や技能と結び付ける。
- ・生活の中の事象や発展的な問題等に出会わせ、習得した知識を活用し、そのよさに気付けようとする。
- ・事例や資料と出会わせ、まだ曖昧な部分や新たな疑問を見出せるようにする。

このプロセスはあくまでも1つの例。
教科や課題によって、それに見合う
プロセスが多様に存在する。

授業づくりのヒントです。

1. 学習指導要領を読んで気づいたこと・思ったこと。

- ・見方・考え方に関しては、多様な関わりを関連付けられていると再確認。能力に関しては定着せずに終わることも生徒（単元）によってはしばしば。
- ・事象を数理的に捉え、数学化して、解決に向かっていく。その解決の過程において、数学的に表現・処理したり、その結果を統合的・発展的に考察する。新しい規則性を見つけ出す。
- ・単元ごとに目指す力が明確にされている
- ・課題解決に向けて、どのように取り組むかが大切！
- ・適切な問いの設定。情報の収集・整理。コミュニケーション力。4技能。文化的背景。
- ・久しぶりに見て、これを基にしなければならないなと思いました。
- ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
- ・「見方・考え方」「資質・能力」「学びのプロセス」ともに、子どもたちがニュースを見て、その背景やその要因、意味などが分かるようになることが、一つの目指すところなのかなと考えました。
- ・指導要領の目標については（1）（2）（3）それぞれ果たせている部分とそうでない部分がある。
- ・見方・考え方…言語の使用・目的・場面によって適切な言葉を選んで表現すること
資質・能力…簡単な情報・考えなどを理解・表現したり伝え合ったりするコミュニケーションの力
- ・社会科で「社会的な見方・考え方」を働かせた表現力の育成

2. 今の自分の授業は「つきたい資質・能力を伸ばせる授業」になっているか？

○つきたい資質・能力は単元によっては○。やはり能力の方が難しい。

△定期テストや評価を意識し過ぎるがあまり、結果に捉われてしまうことがある。解決の過程を統合的・発展的に考察する機会が少なくなった。

×今の授業では知識とイメージを理解させるための授業である。Ex.) 立体は面（平面）の集合という説明をしている。過去の内容を取り上げて授業を行っているが、新たな知識が今後どう活かせるか、伝えきれていない。（時間が経ってから「あ～こういうことか」につながる授業）

△授業の中で知識を教えるタイミングと自ら考えてという時間の差がしっかり分かれている部分がある。

△個別に応じて、資質・能力を伸ばせていない。

×数学の事象から具体的に問題を見出すことが乏しい。

△クラスによって静かに話を聞けないことがあるので、話を聞こうとする態度を育てられるように努めたい。

△やろうとする事が、たくさんある一方、できないことも多い

○社会的事象について、多角的・多面的に考えることや課題解決を追究するなどの活動は授業に盛り込んでいると思うためです。

△単元によってできたものとそうでないものがあり、伸ばし切れなかったと感じるから。

△まだまだ教材研究不足で自信が持てないから

△1時間単位もしくは1単元では伸ばせているとは言えないが、「年間通して」や「3年間で」という括りであれば、身につけているはずです。

△他の教科の先生にチェックして頂いたわけではないのでこれができるかは？ですが、研修などで学んだことを自分なりに考え、指導案をつくっているつもりです。

・「養護を司る」が仕事の中で、生徒たちの自己理解、自己受容、自己決定を促すことはできていると思う。

3. 今年度「学習指導要領に基づいた授業づくり」を研究してきて、変わったこと、思ったこと。

- ・「する・見る・支える・知る」この部分をより意識した。特にこれを多様な関わりと関連づけられたと思う。
- ・生徒の成果物から話を広げていく。それぞれの資質・能力が視覚化される。生徒自身がトライ&エラーを繰り返すことができた。
- ・生徒の声（疑問）を拾い、それをクラスで考えさせる授業へ変化した。
- ・単元・時期等の条件が合えば課題解決学習に取り組ませていきたい。
- ・小⇒中⇒高の接続。英語で集まって話し合う機会になり、教科の色々な考えが聞けた。
- ・子供の意見をもとに問題解決→さらなる問題への挑戦の流れ。そこから「数学・学習過程のイメージ」に沿った単元授業のマネジメントを行う。
- ・学習した文法と単語を使って自分の言いたいことを相手に伝える。
- ・以前は「何を考えさせるか」を中心に授業づくりを行ってきましたが、単元を経た「子どもの姿」を意識しながら授業づくりを行うようになりました。
- ・良いと感じた授業から生徒との関係性が生まれたり、年間を通して変化していったりするのかなと思った。その関係性が作れていないと資質・能力を伸ばせる授業をしても生徒に入っていないと感じた。
- ・学びのプロセス通りである必要はないと感じた。
- ・「教科書を消化！」という授業からの脱却が必要（難しいとは思いますが）子どもにつけさせたい力を意識することと、自分の授業が常につきたい力を意識して行われているかどうかの振り返りが大事。
- ・能力を身に着けるための授業を作っておられるんだなと思いました。
- ・社会的事象について多面的に捉えることが重要
- ・テーマを決めて色・形の中からどのようにイメージをふくらませるか。材料・表現方法をどうするか→評価を考える上で学習指導要領を見ながら指導案を作成している。

4. 「学習指導要領に基づいた授業づくり」とは「○○○」

- ・奥が深すぎる
- ・生徒の思考力を高めていくもの
- ・生徒の可能性を掘り起こす
- ・子どもの主体性・能力を引き出す
- ・未来への投資
- ・能力を伸ばす。
- ・現在、社会に求められる授業づくり
- ・生徒の実態に沿って行っていくこと
- ・基本に立ち返ること
- ・教師も子ども、自分の言葉で語れる授業を目指すこと
- ・生きる力づくり
- ・深い学びにつながるもの

1年間、学力向上の取り組みにご協力頂きありがとうございました！